

マイコプラズマ感染症

マイコプラズマ感染症について

肺炎マイコプラズマ（マイコプラズマ ニューモニエ）

の感染による**呼吸器**の感染症です。

4 年程度の周期で大きな流行があるといわれています。

最近では 2016 年に大流行しました。

全体の**約 80%が 14 歳以下**の小児です。



症状は？

潜伏期間は **2 ～ 3 週間**で、

インフルエンザや RS ウイルス感染症などの

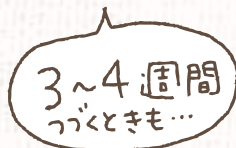
呼吸器疾患と比べて長いです。

発熱、喉の痛み、だるさ、頭痛など

風邪に似た症状からはじまります。

咳は発熱後 3 ～ 5 日からはじまり、コンコンと乾いた咳が多いです。

長引くと咳は徐々に強くなり、解熱後も咳だけが残る 3 ～ 4 週間続きます。



合併症は？

まれに**心臓・脳・関節・神経**などに様々な合併症を引き起こすことがあります。

治療法は？

抗菌薬を内服します。

マクロライド系抗菌薬（クラリスロマイシン、エリスロマイシンなど）をまず内服します。通常内服後 2～3 日で解熱しますが、薬が効かないものも増えており、テトラサイクリン系※（ミノマイシン）やニューキノロン系（トスフロキサシン）という抗菌薬を使うこともあります。

これらの治療をしている間に良くなることがほとんどです。

呼吸が苦しい、水分がとれないなどあれば入院して点滴や酸素の治療を行います。

重症になるとステロイドの治療を行うこともあります。

現在のところ、予防するワクチンはありません。

※この薬は 8 歳未満の子どもには副作用の影響を考え、使用しません。

家庭での ケア

Point

水分補給と安静

熱が下がり
咳のピークが過ぎれば
登園OKですが
園によって方針が
違うので
園の指示に従ってください



マスク

- 水分補給と安静を心がけてください。
- 咳がひどい場合も多いので、加湿器などでお部屋を加湿しましょう。
- のどの保湿にはマスクも有効です。
- 処方された薬は決められた期間はきっちりと内服してください。

予防の ポイント

Point

手洗い・うがい・マスクの着用



流行している時期には手洗い、うがい、マスクの着用などの予防を行いましょう。

潜伏期間 2～3 週間 **改善まで** 3～4 週間程度